

新春 雑感



うさぎ年

人口労働グループ
荻津 美智子

今年の干支はうさぎ、私の年である。今年の抱負、「今年は最高学年の6年生になるので、気持ちを引締め、勉強に、運動に頑張りたいと思います。」???

やはり、自分でいうのも何だけれど、ちょっと無理がありそうだ。とはいえ、私自身、12年前と今とそんな変わったような気はしていない。それは成長していないということだと言われてしまえばそれまでだが、是非とも、純粋な心を持ち続けているんだねと言って欲しい。

あの頃、何をしていたのかふと考える。そうそう、「あの頃私はご活発なお子さんをしていた。担任の先生がスポーツ大好き人間でスポーツ少年団なるものを指導しておられたため、私は夏冬問わず1年中真黒だった。」何が活発なのかよくわからないが、家庭学習には縁遠く、毎日漢字練習ノート1ページという宿題を、朝やるということとはたびたびであったし、冬休みや夏休みの最初の3日にまとめて宿題をし、残ってしまったものは最後の1日まで大事にとっておくといった強者だった。

あれから12年。過ぎてしまえばはやいような気もするけれど、でも実際は、1年1年、1日1日いろいろな事があって、それなりの重みがあったのだと感ぜられる。12年後、私はどうしているだろう。どうなっているにせよ一生懸命生きているといいなと思う。

今年の抱負「就職して3年目に自分の干支を迎えるにあたって、よく遊び、よく学べの精神で大いに頑張りたいと思います。」うーん。私って本当に成長していないのかな。



36歳の抱負

商工グループ
赤尾杉 友一

ついに30代後半に一步を踏みだした。35歳までは30代前半と言えたのに……。

しかし、子供が小学校の2年生を筆頭に3人になれば当然である。40歳は急速に近づいてくるだろう。

私たちの子供の頃を思い出してみよう。子供は毎日毎日新鮮な驚きの日々を送っている。そのため大人の生活リズムとずれが生じ、それが子供を怒る原因となっている。そのいい例が、“早く〇〇をきなさい!”の“早く”に表われている。1日に何回言うかクイズに出すとおもしろい。その位ゆとりのある気持で子供に接しないと、のびのびと成長しないと思う。そのためにも、怒るのを控え、子供の話し相手となり一緒によく遊ぶことを今年の第一の抱負としたい。

最近10年間の年末年始は、店の手伝いで忙しく、親子水入らずの正月は今年が初めてであった。ほんとうに良い正月だった。ちょっと早過ぎるが、“1年の計は元旦にあり、”と言うように来年も子供と一緒に正月を迎えたい。そうするためには、店のこれからを考え、家庭の基礎をしっかりとしたものにする必要がある。両親も60歳を超え、親孝行の対象年齢になってきたので、両親と同居できる中流家庭向きの家を建てたい。これが第二の抱負である。

結婚して8年経ち、体力も徐々に落ちてきたが、そろそろ家族の中心として働かなければならない年令になってきた。日毎に責任は増してゆく。

しかし、これからの毎日を暗く考えず、今年もやはり健康第一で楽しく過ごしてゆきたい。(でも8千万円の宝くじが当たっていたら……!)

統計課の

卯年 生まれの方



子供の頃の遊びについて

農林経済グループ
遊 佐 幸 蔵

今年は卯年なのでうさぎについて考えていると「うさぎ追いかの山、小鮒釣りし……」のメロディが流れ、子供の頃の遊びが心に浮かびましたので当時の遊びについて書くことにしました。私の出身地は福島県郡山市です。

遊びの種類はスケート、雪だるま作り、こま回し、ビーだま、凧あげ、すごろく、杉鉄砲、竹馬、将棋、雑魚すくい、魚釣り、水泳、野球等であります。中でもこま回しはなかなか面白いものでした。麻で編んだひもで木のこま（鉄棒のついたこまもある。）を空中で回転させながら相手のこまめがけて投げおろし相手のこまを転がすものでなかなか難しくもあり、豪快でも有ります。

暖かくなると、どじょう、小鮒、モロッコ等雑魚すくいを始めますが雨あがりの水量の増えた時が良く、いつもの友達といつもの小川で魚すくいをしたものでした。

暑くなると、待ってましたとばかり川に行き水泳と魚釣りです。魚の種類はオイカワ、ハヤ、モロッコ、鮒等です。当時は魚影が濃く1日100匹以上釣れることもたびたびでした。

夏休みになると、友達とおにぎり持参で魚釣り水泳をするのが大きな楽しみでした。

魚の釣れる日は夕方暗くなると、白い浮きに換えて浮きが見えなくなるまで釣りをし、気がつくやうに遠くに人家の灯りが見え、心細くなったこともしばしばでした。

全てなつかしい思い出であります。



正月待ち

農林経済グループ
猿 田 俊 一

毎年のことですが、師走にはいると、捨てるべきは捨て、生かすべきは生かすよと自分に叱咤するのです。一年を、つまづきながら歩んでは来たものの、中途半端にしてしまったことのいかに多いことよと、つくづく思い知らされるものです。たまりたまった雑誌や新聞、書籍、書類などの整理にとりかかると、まるで紙の洪水のようで、情報の氾濫と未整理のためか、それが年ごとにひどくなります。

しかし、こうした書類を要、不要と分類していくだけでも結構、一年の回顧をすることにもなり、心の整理もはかれるので捨てがたいものです。あちこちに放り出してある月刊紙を捜し求めたり、雑誌の見出しに興味をもち読み耽ってしまっているうちに時がたってしまう。結局、紙屑として捨てられるものは、その何分の一かに過ぎなくなると、残りはまた未練がましく束ねてほうり出しておくので落ちですが、それでも一応片付いたという気持ちになり、安心します。

そして、大晦日をむかえ、正月の準備が万端ととのった夜に一年の反省をしてみる訳ですが、今年もまた、何ひとつ満足に果たし得なかったことへの悔悟の念と、新たな想いが入り混って妙に神秘的な気持ちになるものです。正月そのものよりもそれに備える正月待ちの日々の方が活気もあり、新しい年への期待のためか身も心も引き締まります。

ゆく年来る年がのっぺらぼうにつながっていても、せめて心の中だけはけじめをつけて来る年を希望をもって迎えたい……。